

平成30年度酒谷小学校学校評価

日南市4つの学ぶ力の育成

○他者から学ぶ力 ○自ら学ぶ力 ○自然から学ぶ力 ○社会から学ぶ力

1 学校の教育目標	「心豊かに 体をきたえ 自ら学ぶ 実践力のある子どもの育成」
2 めざす学校像	「児童も一人一人が輝く学校」「美しく清潔で安心・安全4な学校」「地域と連携して、生き生きと活動する楽しい学校」
3 めざす子ども像	「 <u>かん</u> せいの豊かな子」「 <u>が</u> まん強くがんばる子」「 <u>や</u> さしい子」「 <u>き</u> ょうりよくする子」
4 めざす教師像	「自ら学び、資質・指導力の向上に努める教師」 「児童と地域を愛し、ともに磨きあう情熱ある教師」 「積極的な経営参加と一致協力して取り組む教師」

<学校経営ビジョン>

小規模校の特性を活かし、全職員が「チーム酒谷」として創意ある教育活動にあたるとともに、保護者、地域との連携・協働を推進することで、学校の教育目標(心豊かに 体をきたえ 自ら学ぶ実践力のある子どもを育成する)の具現化と、地域に信頼される学校づくりに努める。

重点目標	具体的目標	自己評価結果	評価	評議員評価
確かな学力の定着	○ 学習訓練の徹底と複式授業の充実	毎学期始めと終わりの年6回、学習指導週間を定期的に設け、全校で統一した指導を行うと共に年間を通じた継続した指導行った、特に、姿勢(立腰指導)の指導を徹底している。また、研修を通して複式の授業を充実させる取組も行った。タブレットPCやパソコン、大型テレビを活用することで、楽しみながら集中して学習に取り組んでいる。	3	3
	○ 「分かった」「できた」と実感できる授業展開と指導法の工夫改善	国語の学力向上のために授業研究に取り組み、特に表現力を身に付けさせる授業の工夫を行い、自分の考えをもって、それを言葉や文で表現する力を養う授業の在り方を研究した。さらに今年度は、学力テストの分析を通して習熟を図ると共に表現活動を楽しむ「酒谷タイム」を朝の時間に設定し、取り組んだ。また、複式解消のために、音楽や体育の一斉指導、教頭による算数の授業等、教育課程を工夫して学力や技能の向上を図った。	3	
	○ 読書習慣の定着	読書年間 1000 冊を目標にして読書活動を推進した。1月には目標を達成することができた。学校では読書する姿はよく見られ、市の移動図書館「たいよう号」もよく活用している。しかし、家庭では、多様なメディアに興味を引かれているためか、アンケートの数値が児童、保護者ともに低く、個人差も大きい。図書司書によるブックトークや地域の方々による読み聞かせの実施、ビブリオバトル等、読書への関心が高まる工夫を行っているが、自ら進んで読書をするような習慣を身に付けさせる方策を今後考えていきたい。	2	
	○ 授業と連動した家庭学習の推進	基礎的・基本的な内容の定着や学力向上を図るために授業と連動させて宿題を出している。量と質を考え、計画的に出すことによって成果をあげている。子ども個々の取組に差があるので、今後も家庭学習の習慣付けを図る指導を行っていきたい。	3	
豊かな心を育む教育の充実	○ あいさつ運動の充実	虹色あいさつ運動や職員一人一人との毎日のあいさつによって元気で気持ちのよいあいさつができている。来校者や地域の方へも積極的によいあいさつを行っている。今後も「いつでも」「どこでも」「誰にでも」あいさつができるように継続して指導を行ってきたい。	4	4
	○ 道徳指導の充実	「特別の教科 道徳」の授業を充実させ、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることができるよう研修や授業の工夫を行っている。子どもたちは学校生活に満足感をもっているため、今後も日常指導と道徳の時間の指導を通して学校生活を充実させ	4	

平成30年度酒谷小学校学校評価

		ていく。		
	○ いじめ防止基本方針の推進	毎月のいじめ・不登校等対策委員会において、子どものアンケート結果について協議し、全職員で今後の対応を共通理解して指導に当たっている。また、主任民生児童員とも連携を図りながら対応できた。	3	
健康・体力の向上と安全教育の充実	○ 基礎体力の向上	体育の時間や業前の時間（スポトレ）に基礎体力を育成する活動を行っている。子どもたちは体力が向上したと感じている。運動領域によって差があるので、外遊びにも工夫を行い、運動が日常化されて体力が向上するように努めていきたい。	4	4
	○ 危険予測・回避能力の育成	避難訓練を年４回実施し、危険予測・回避能力の育成を図った。風水害の避難訓練では、引き渡し訓練を行った。不審者対応訓練、火災訓練、地震訓練では、講師を招聘したり、予告無しで実施したり、具体的な場面を想定して行ったことで、実際に即した訓練ができた。今後も様々な場面を設定して避難訓練を行い、危険予測・回避能力の育成を図りたい。	4	
	○ 家庭、関係機関と連携した食育・健康教育・安全教育の充実	学校保健委員会や家庭教育学級において、講師を招聘し、家庭における情報教育の在り方や食育指導（へら塩）を計画的に実施したことで、保護者・児童の意識を高めることができた。また、生活リズムチェックシートを活用し、健康に関する個に応じた指導や相談ができた。関係機関等とも連携して指導を行い、改善を図ることができた。今後も家庭と連携した取組を継続していく必要がある。	4	
開かれた学校づくりの推進と家庭・地域との一層の連携	○ 学校の積極的な情報発信	学校通信や学級通信を発行したり、毎日ホームページを更新したりすることで、学校の様子や取組を保護者・地域へ発信した。また、「保健だより」など、きめ細かな啓発等を通して、教育効果が上がるように努めた。地域コーディネーターとの連携によって、地域の方の協力を得て稲作活動等の活動を実施することができている。	4	4
	○ 地域行事への積極的な参加	「酒谷まつり」や「棚田まつり」等、地域の行事に積極的に参加するようにした。保護者からの協力を得られるように連絡調整をした。ふるさとを大切に思う心を育てる活動を通して協働意識を高めることができた。今後はさらに酒谷地区への愛着が深まるような工夫をしていきたい。	3	
	○ オープンスクール、授業参観日等の充実	年１０回の参観授業を実施した。学校と家庭が協働して子どもの育成ができるように内容の工夫をした。運動会は雨で延期になったが、地域の方の協力によって実施することができた。稲作活動は、地域の方のたくさんの協力のおかげで無事に終わらせることができた。今後も地域と協力し、酒谷小の教育活動を充実させていきたい。	3	

学校評議員の総評

- 学校林活用事業で購入したタブレットPCを効果的に使っていることはとてもよい。今後も、教育効果を上げるために必要な機器等があれば、どしどし相談してほしい。
- 読書については、学校ではよく取り組んでいると思うが、今後は家庭への啓発が必要である。
- 少人数のよさを生かした教育を今後も推進し、他地区からも通学する児童が増えるとよい。
- 地域の伝統芸能を児童の教育活動に位置づけて、地域に愛着を持つ子どもを育てたい。
- 学校と保護者、保護者と地域、地域と学校が連動して、子どもたちのために取り組んでいく体制を構築しなければならない。